

株式会社 JALUX

事例紹介

SVFとFNX e-帳票FAXサービスで「BLUE SKY」の小売りシステムを刷新
柔軟で安定した稼働環境が評価され、今後は全社展開も視野に

Interview



株式会社 JALUX
システム企画室マネージャー 梅原 修氏

全社での帳票インフラ展開を見据えて SVF を採用

帳票の作成や変更が容易な開発環境も評価

顧客への生活提案を推進する JALUX BLUE SKYの小売りシステムを刷新

1962年3月、保険、印刷、不動産、空港店舗などの顧客サービス系の事業からスタートしたJALUXは、現在、法人企業向けの「コーポレートビジネス」および消費者向けの「リテールビジネス」の2つを柱に事業を拡大。2002年には株式上場を実現し、「お客様へ向けての生活提案」を行う新しい形の会社へと進化・成長している。

JALUXの事業のひとつである空港リテール事業では、日本全国の26空港に94店舗（2009年6月現在）の空港店舗「BLUE SKY（ブルースカイ）」を展開。BLUE SKYに導入する新しい小売りシステムのFAX配信システムとして、帳票システム基盤であるSuper Visual Formade (SVF) およびASP型のFAX配信サービスであるネクスウェイのFNX e-帳票FAXサービスを採用した。

SVFとFNX e-帳票FAXサービスで 高品質な帳票設計と、自動FAX配信を実現

JALUXが2009年2月に福岡のBLUE SKYから導入を開始した「コロンブス」と呼ばれる小売りシステムは、商用の販売管理パッケージをベースに開発されている。コロンブスの最大の特長は、BLUE SKYで販売している商品の単品管理が可能になったことだ。従来のシステムでは、単品管理ができなかったため、いま何が売れているのか、何をどれだけ発注すればよいのかといった状況を把握することが困難だった。

JALUXのシステム企画室マネージャー、梅原修氏は、「単品管理ができることのメリットは、いつ、誰が、何を、どれだけ購入しているのかを分析できることです。単品管理により、どの商品をいつ発注

すればよいかを容易に判断できます。これにより発注から納入、売上までの伝票の流れを自動化し、効率的な店舗運営を実現できます」と話す。

そこでコロンブスでは、取引先に送付する伝票類に関してはパッケージの帳票機能を使うのではなく、より柔軟性が高く、高品質な作表が可能なSVFを利用し、SVFから出力された伝票をFNX e-帳票FAXサービスで、取引先に自動的にFAX配信できる仕組みを構築した。

基幹系への実績から SVF、 業務観点から e-帳票を採用 業務に必要な不可欠な帳票の FAX 出力

コロンブスにSVFが採用されたのは、経理システムの開発で利用した実績があったためだ。JALUXでは2007年4月に、SAP R/3により基幹システムを刷新したが、このときSAP R/3の帳票機能を補完するための仕組みとしてSVFが採用された。

梅原氏は、「SVFは、帳票の作成や変更が容易にできることはもちろん、SAP R/3以外の帳票基盤としても利用できることが評価されました。今後は、全社の帳票インフラとしての活用にも期待されています」と話す。

一方、FNX e-帳票FAXサービスが採用されたのは、すでにFAX配信システムとして導入されていた既存FAXシステムのサポートが終了したためだ。

梅原氏は、「独自にFAX回線を用意してサーバーを立ち上げ、通信費を払ってFAX配信システムを導入する方法も考えましたが、今回のようにサポートが終了してしまうとまた別の仕組みを構築しなければなりません。FAXの利用は今後も不可欠であり、同様のケースは避けたいと考えました」と話す。

Company Profile

株式会社 JALUX (ジャルックス)

設立: 1962年3月28日

所在地: 東京都品川区

事業内容: 航空機、部品及び客室用品の販売、空港店舗 (BLUE SKY) の運営、通信販売、保険業、印刷業、不動産業、施設管理業 など

URL: <http://www.jalux.com/>



導入背景

- 個別最適から全体最適へ
- BLUE SKY への小売システムの刷新
- 既存 FAX システムの見直し

導入ポイント

- SAP R/3 との連携性
- 帳票と FAX ASP サービスの使い勝手の良い開発環境
- さまざまな業務への拡張性

導入効果

- 安定した稼働環境
- 紙の帳票と電子帳票の両立
- 帳票システムと FAX 配信システムの基盤化を実現

また、FAX 配信システムは、日本全国 94 店舗の BLUE SKY に導入しなければならないため、FAX 回線や FAX サーバーを独自に準備し、システムを構築、運用管理するのは効率的にもコスト的にも良い判断とはいえなかった。さらにコロンブスでは、送信枚数の予測が困難であり、回線数や保守人員がいま以上に必要になる可能性もあった。そこで考えたのが ASP 型の FAX サービスの採用であり、いくつかのサービスを比較した結果、現場で容易に送達管理や再送指示ができる専用 Web 画面「FNX Navi II」が無料で提供されること、メールや FAX、Web 環境など、現場の要望に合わせた複数手段から不達時の通知を選択可能なことなどを評価して FNX e- 帳票 FAX サービスが採用された。

SVF の安定した稼働環境と使い勝手の良さが導入の効果

FNX e- 帳票 FAX サービスを導入した効果を梅原氏は、「FNX e- 帳票サービスであれば、FAX 回線や FAX サーバーを独自に準備する必要がないので、初期コストが削減できます。また、数百通の FAX を自動的に数秒で送信できるので業務効率も向上しました。さらに、FAX システムを管理する必要もなく、まさに「これだ!」と思いました」と話す。

一方、SVF を導入した効果を梅原氏は、「SVF は非常に安定して動作します。また、帳票設計の操作性が高く使い勝手也非常によいので、気軽に帳票を作成できます。さらに、紙に印刷するか、PDF で電子帳票にするかも利用者が容易に選択できて便利です」と話している。

「現在、SVF と FNX e- 帳票 FAX サービスの組み合わせは、コロンブスだけに導入されていますが、今後はほかの部門の FAX 配信システムへの横展開も計画しています。SVF では、Universal Connect/X を有効に活用していますが、まさにユニバーサルな FAX 配信システムの基盤が実現したと思っています」(梅原氏)

今後は全国の BLUE SKY に展開 帳票システムと FAX 配信システムの基盤化

今後、JALUX では、コロンブスを日本全国の BLUE SKY に展開していく予定。同時に、すでに導入されている帳票システムや FAX 配信システムを SVF と FNX e- 帳票 FAX サービスに移行する。さらに、調達・見積もりシステムも FNX e- 帳票 FAX サービスに移行する計画だ。

JALUX では、4つの部門でそれぞれに最適化された帳票システムや FAX 配信システムを導入してきたために、同じような複数のシステムが構築されている。そのためシステムの管理性や開発/運用コストの高騰などの課題を抱えており、コロンブスで構築した仕組みを横展開することで帳票システムと FAX 配信システムの全体最適化を目指している。

梅原氏は、「まずは基幹系で使用している既存 FAX システムのサポート期間終了までに、FNX e- 帳票 FAX サービスに移行したいと思っています。また、基幹システムで連続用紙に出力している請求書、発注書、納品書などの仕組みを SVF で再構築する計画です」と話す。

ドットプリンターによる連続帳票印刷を SVF で再構築するのは、まずプリンターの印刷音が大きいほか、専用紙が高価なためだ。また現在は、担当者が連続用紙に出力された伝票を A4 サイズの用紙にコピーして FAX しており、こうした非効率な作業の改善も目指している。さらに JALUX では、店舗で販売されている商品の状況や通販の人気商品などを「見える化」するための分析システムの導入も検討している。

導入製品

Super Visual Formade (SVF)

膨大な帳票開発の効率化と多様な出力要件に応えるための、帳票開発支援ツール

Universal Connect/X

各種 Java 対応実行モジュールとの組み合わせにより、ノンプログラミングで用途にあった帳票出力を実行するソフトウェア

SVF for PDF

PDF 帳票を出力するだけでなく、本格的な業務で求められる効率的な文書管理機能を加えた付加価値の高い PDF を生成するソフトウェア

システム構成

